



2007年10月25日 Vol.351

MIHARA ANNIVERSARY

共育委員会 9月例会

今だからこそ **日本の魂** を見直そう！

～「**道徳**」をキーワードに三者の主張を聞く！～

近頃、聞くに堪えない悲惨な問題・犯罪の数々がメディアから伝えられます。またこのまちの教育現場においても、不登校・いじめ・青少年犯罪・家庭教育力低下などの問題を耳にします。このようになってしまった原因の一つには、教育という側面が関係しているのではないのでしょうか。この国の歴史を紐解いてみると、私たちの先人は他国にも誇れる高い道徳心をもち続けて来たようです。今回はそれを再検証し、明るい豊かな未来のためにこれからの教育・共育はどうあるべきか。ゲストの皆様とそれぞれの立場で話し合いました。

なぜ戦後この国の教育が大きく様変わりしたか？

第二次世界大戦に敗れGHQ占領統治の中、彼等は日本が再度脅威にならないよう戦争についての罪悪感を植え付けるための政策を実施した。そのためには「武器」でなく「情報」「教育」であるという考えに基づき、あらゆるメディアを独占し利用したが、国民は検閲を受けていることすら知らされていなかった。先の大戦は計画戦争でなく日本が追い詰められ自衛のための受動戦争であり、後にマッカーサーも米国上院外交軍事委員会で「日本が行った大東亜戦争は自衛のための戦争だった」と懐述している。しかしGHQは戦争の原因を「日米の国家間の対立」から「日本の戦争指導者と日本国民の対立」にすり替えた。大都市への無差別爆撃も広島・長崎への原爆投下も戦争指導者の責任で起こったという論理を展開し、次第に日本に定着し教科書にも記述されるようになった。民主化という名の下「情報」「教育」を統制し、この国の精神・哲学・道徳心を失わせ新しい社会を作る、これがGHQの戦略であったと考える。



(社)日本青年会議所 近現代史教育実践委員会 小島副委員長

この国の民主主義の問題点

民主主義国家というものは、明文化された法律と別に道徳律があるものである。たとえばアメリカの場合はキリスト教の宗教観が道徳律の基本となっている。神が与えた権利を自然権(人権)としてとらえている。日本においてはこういったアメリカの道徳律を理解しないまま「自由・権利・平等」のみの憲法や教育基本法が出来てしまったのではないかと感じる。

古き良き 日本の魂(こころ)

八百万(やおよろず)の神とは？ 山の神、水の神、学問の神、生き物の神等 我々の祖先は自然や目に見えぬものに対して畏れの気持ちや感受性が敏感で、全てのものに「八百万の神」が宿ると考えた。これが日本人の自然崇拝の思想であり神道である。それをもとに「わびさび」「もののあわれ」といった独特の感受性・美意識が生まれると同時に、多くの洗練された文学も生まれ、そしてまた、独自の道徳観を形成する要因にもなった。



共育委員会 田尾委員

武士道とは？

仁(思いやり) 義(正義の心) 礼(礼儀・礼節) 智(叡智・工夫) 信(信用・信頼) 忠(偽りの無い心) 孝(父母を大切にすること) 悌(年長者に従順な心) 現在一般に「武士道」といえば、武士社会が減んだ後の明治期に日本のアイデンティティの拠り所の一つとして再創造されたものが一般的である。西洋の新しい価値観の波が押し寄せてくる中、日本人とは何かを問い直す必要があった。これ以降武士道は武士の形を捨て、精神を引き継ぐ形で日本国民の道徳心としての規範的存在となる。

戦後教育問題

自由・権利か義務・責任か？ 戦後の憲法や教育基本法には、日本的な道徳精神や家庭教育の重要性にあまり触れず、義務・責任より自由・権利を重視し、それをもとにした教育が行われてきた。公という概念をないがしろにして、個人主義が叫ばれた結果、利己主義的な民主主義になってしまったのではないだろうか。また平等という名のもと出来るだけ競争をさせない教育がされてきたが、世の中を生きてゆく強い心を育てることも教育の大きな役割ではないだろうか。

道徳教育は 大変重要！

道徳教育なくして子供は正しく育たないと考え、学校教育の中でも非常に大切にしている。しかし学校教育だけで子どもたちに道徳が根付くものではなく、家庭での道徳教育も同じように重要であり連携して行う必要がある。以前は道徳教育が軽視されていた部分もあるかもしれないが、文部科学省からの指導のもと現在は確実に変化を遂げている。「心のノート」という道徳教材を配布し、それを基本にして年間指導計画を作り、道徳教育を行っている。また道徳の授業を公開し、地域と一緒に道徳教育をおこなっている。ぜひ市民の皆様に関心を持っていただきたい。JCの皆さんが「日本の魂(こころ)」をテーマに取り組みされていることを非常に心強く思う。



三原市教育委員会 植木教育長

日本人のひたむきな努力

阪神大震災のとき、この国は諸外国のような略奪や暴動はなく、皆で助け合って努力し復興を遂げた。これは日本人に根ざしている道徳のおかげとも言えるだろう。この国には素晴らしい心があることをもっと教えなければならぬし、大切にしなければならぬ。戦後日本は、それまでの日本を全面否定するところから始まったが、それでは自信も誇りもなくなってしまふ。その当時の国民がどれだけ苦労したか、また日本が戦後60年でこれだけ発展した偉さ、勤勉さ、努力の素晴らしさ、またその原動力となったものは何かをしっかりと子供たちに伝えてゆくという課題があると考えている。

教育長の目指す これからの学校教育

「教育創造」どこにも負けない質の高い三原の新しい時代の学校教育を創る。「三原再発見」故郷三原のことを学び三原が好きになる教育。そして将来は世界に羽ばたく活躍。故郷三原に自信と誇りを持つ教育。

道徳心を育もう！

私たちは戦争体験をもとにこの国の歴史に悪い印象を持ちがちだが、過ちは反省した上で良い部分ともしっかり向き合い、この国に誇りと愛情を持って歴史・伝統・精神を大切にすべき。その中で日本の魂(こころ)に表される道徳心こそ、我々が今見直さなければならない大切なものではないかと思う。自由・権利・平等も大切だが、その反面にある義務・責任・公共心とのバランスを見直し、まわりの人に対して、わがまちに対して、祖国に対して思いやりの心を持つことが必要である。また子どもたちの人間性を育むということは家庭・地域教育の大きな責務だと思う。このまちの明るい未来のために、子どもたちに「道徳心」を育むということを家庭・学校・地域が一体となって取組んでゆきましょう！



共育委員会 村上委員長

またかきいたか

(社)三原青年会議所新聞は1962年に誕生以来45年の永きに渡る先輩諸兄の弛まぬ努力の積み重ねと地域社会の皆様方の深いご理解とご協力のおかげで、今年で45周年を迎えることができた。◆誕生以来多くの先輩諸兄、並びに現役会員は「明るい豊かなまちづくり」を

基本理念に修練・奉仕・友情を三信条に掲げ、自分たちの住むまちを良くしてゆくことが明るい豊かな三原となり、その活動が広島全体に広がり、更には日本を「明るい豊かな国」にしてゆけると信じ活動を行っている。しかし、逆を言えば「明るい豊かなまちづくり」ができていれば青年会議所とゆう名の団体は必要ないのである。◆将来を担う

子どもたちを育む共育環境の充実・市民協働でのまちづくりへの提案、実践など多くの活動、事業を展開してきた中で、多くの市民の方と接する機会があるが、活動に参加してみたかったがそのような機会が無かった人、また個人的に色々な団体と共に三原を良くしてゆこうとしている人など様々な人がいた。青年会議所が成すべきことはこ

の三原に住む人がまちを良くしてゆこうと考え実行することができる人を、一人でも多く増やしてゆくことではないだろうか。◆今後も我々(社)三原青年会議所は活動・運動を行ってゆくが、願わくばいつか笑って解散することのできる日が来ることを願う。